

2016 年度 名古屋大学 前期 世界史

問題 I 古代の地中海世界

| | |
|-------|--|
| 出題範囲 | 古代の政治・社会史 |
| 難易度 | ★★★★☆☆ |
| 所要時間 | 25 分 |
| 傾向と対策 | 一部にかなりの難問が含まれるが、それを除けば教科書レベルの知識で確実に解答できる。一部の難問に時間を取られないように気をつけ、確実に解ける問題から解こう。なお、この問題は『通商国家カルタゴ（興亡の世界史 3）』（佐藤育子・栗田伸子著、2009 年、講談社）をもとに作成されたと思われる。この著作を読むとこの問題の背景や、より詳しい情報を知ることができる。受験勉強の合間に息抜きとして読むのもよいかもかもしれない。 |

《この解説の使い方》

黒太字 …この試験で合格点を取るために必要な頻出語句や内容を黒太字で記載した

赤字 …解答に関連する語句または内容を赤字で記載した

青字 …この試験で合格点を取るためにおさえておきたい年号を青字で記載した

解答

問 1 (a)フェニキア人 (b)アルファベット

問 2 (a)地中海で不足する銀などの鉱物資源がイベリア半島で豊富に産出されたから。(35 字)

(b)地中海の海流は反時計まわりで、フェニキア人は海流に沿って航海を行ったから。(36 字)

問 3 (a)アッシリア (b)ニネヴェ

問 4 (a)シュラクサイ

(b)ポリス形成に伴い社会が安定すると人口が増加し耕地・食料が不足し始めたため、ギリシア人は大規模な植民活動を行い地中海沿岸にシュラクサイを建設した。(72 字)

問 5 第 2 次ポエニ戦争でハンニバル率いるカルタゴ軍はアルプスを越えて北イタリアに侵入し、カンネーの戦いでローマ軍を撃破した。しかしイタリアにとどまったハンニバルの勢力は弱まり、大スキピオ率いるローマ軍がカルタゴ本土を攻撃した。そしてザマの戦いでローマ軍がカルタゴ軍を破り、ローマが戦争に勝利した。(145 字)

問 1 難易度：★★★★☆

解答

(a)フェニキア人 (b)アルファベット

解説

- (a) B.C.9 世紀から地中海で海上交易を展開した民族は、**フェニキア人**である。フェニキア人はセム語系民族で、現在のレバノン南部にシドンやティルスなどの海港都市国家を建設した。彼らはここを拠点に地中海で海上交易を行い、特産品であるレバノン杉などを輸出することで巨額の利益を得た。彼らは地中海沿岸に多くの植民市を建設しており、**カルタゴ**はそのうちの 1 つである。
- (b) フェニキア人は原カナン文字をもとにして**フェニキア文字**を考案した。フェニキア文字はフェニキア人の交易活動に伴って東地中海沿岸の諸都市に伝わり、ギリシア人はこれをもとに**アルファベット**を生み出した。

問 2 難易度：★★★★★

(a)

解答例

地中海で不足する銀などの鉱物資源がイベリア半島で豊富に産出されたから。(35 字)

設問の要求

字数 約 13.4cm×2 行

主題 フェニキア人がジブラルタル海峡の外側にまで進出した理由

解説

この問題を解答するために必要な知識は教科書に記載されておらず、かなりの難問である。受験の範囲にとどまらない世界史の知識と想像力が必要であり、この問題を解答できた受験生はかなり少ないと思われる。実際の試験でこのような難問に遭遇した際には、悩んで時間を浪費するよりも、ほかの確実に解ける問題の解答を優先すべきである。

イベリア半島やモロッコでは**鉱物資源**、特に**銀が産出された**。フェニキア人はこの銀をオリエント世界に供給した。

(b)

解答例

地中海の海流は反時計まわりで、フェニキア人は海流に沿って航海を行ったから。(36 字)

設問の要求

字数 約 13.4cm×2 行

主題 フェニキア人の航海ルートが図のようにとられた理由

解説

この問題も(a)と同じく、解答に必要な知識が教科書に記載されていない難問である。

当時の海上交易で用いられた船の多くは帆船であり、また航海技術も未発達であった。そのため、重い積み荷

を載せた船で海流に逆らう航海を行うのは非常に困難であり、フェニキア人は海流に沿った航路を開拓した。

問3 難易度：★★★★☆

解答

(a)アッシリア (b)ニネヴェ

解説

- (a) B.C.8～B.C.7 世紀に西アジアを広く支配した大国は**アッシリア**である。メソポタミア北部から興ったアッシリア人は**鉄製武器**と**戦車**を用いて強大となり、B.C.7 世紀までにはエジプトまでを含むオリエントを統一する帝国となった。その統治政策は、反抗した民族を征服して属州をおき、服従した民族には重税を課し、また強制移住政策を行うなど、非常に強圧的であった。
- (b) **アッシュル＝バニパル**の時代にアッシリアの領土は最大となり、首都である**ニネヴェ**には大図書館が建設された。フェニキア人はアッシリアの攻撃を受けた民族の1つであったが、海上貿易では繁栄を続けた。

問4 難易度：★★★★☆

(a)

解答

シュラクサイ

解説

シュラクサイとはシラクサのことである。シラクサのほかにも、ビザンティオン・マッサリア・ネアポリス・タレントウムなどが、**ギリシア人**によって建設された植民市であることは覚えておきたい。図中のほかの白丸の都市は、**フェニキア人**が建設した植民市とその母市である。

(b)

解答例

ポリス形成に伴い**社会が安定**すると人口が増加し**耕地・食料が不足**し始めたため、**ギリシア人**は大規模な植民活動を行い**地中海沿岸**にシュラクサイを建設した。(72 字)

設問の要求

字数 約 13.4cm×2 行

主題 シュラクサイが建設された理由

解説

設問文に惑わされた受験生が多いと思われる。一般的なギリシア人の植民市が建設された経緯を知っている受験生は多いだろうが、シラクサという特定の植民市が建設された経緯を知っている受験生は少ないだろう。『通商国家カルタゴ（興亡の世界史 3）』によると、シラクサが建設された経緯は一般的なギリシア人植民市が建設された経緯と同じであるため、表現に気をつけて一般的な経緯を答えれば正解となるが、それにしても問い方が少々難しかったかもしれない。

さて、ギリシア人植民市が建設された経緯であるが、ポリス成立以前のギリシアは**暗黒時代**とよばれる混乱し

た時代であった。しかしポリスが成立すると、ポリスは防衛の中心となって人々の定住を促したため、社会が安定し始めた。これに伴って人口が増加し、耕地・食料が不足するようになった。このためギリシア人は大規模な植民活動を開始し、地中海沿岸や黒海沿岸に大量の植民市を建設したのである。シラクサはこれらの植民市のうちの1つである。

問5 難易度：★★★★☆

解答例

第2次ポエニ戦争でハンニバル率いるカルタゴ軍はアルプスを越えて北イタリアに侵入し、カンネーの戦いでローマ軍を撃破した。しかしイタリアにとどまったハンニバルの勢力は弱まり、大スキピオ率いるローマ軍がカルタゴ本土を攻撃した。そしてザマの戦いでローマ軍がカルタゴ軍を破り、ローマが戦争に勝利した。

(145字)

設問の要求

字数 約 14.1cm×4行

主題 第2次ポエニ戦争の経緯

条件 カルタゴ軍、ローマ軍をそれぞれ率いた指揮官や主要な戦闘に言及する

解説

B.C.218～B.C.201年に起きたカルタゴ対ローマの戦争という情報から、この問題が第2次ポエニ戦争に関するものだと想起できるかがカギである。ポエニ戦争は第1次から第3次まで3回にわたって行われた。それぞれ具体的な年号は覚えていなくても、どの時期に行われたかはしっかりと覚えておきたい。第1次はB.C.3世紀半ば、第2次はB.C.3世紀末、第3次はB.C.2世紀半ばである。わからなかった人はしっかりと復習しよう。

第1次ポエニ戦争での敗北後、ハンニバル率いるカルタゴ軍はイベリア半島での支配地を拡大しており、同じく領土を拡大していたローマとイベリア半島で再び衝突したことで、第2次ポエニ戦争が始まった。そしてハンニバルはアルプスを越えてイタリアに侵入し、カンネーの戦いでローマ軍に勝利した。しかし、その後イタリアにとどまったハンニバルの勢力は弱体化してしまった。その隙に大スキピオ率いるローマ軍はカルタゴ本国に攻め入り、B.C.203年に帰国したハンニバルをザマの戦いで打ち破って、第2次ポエニ戦争にローマが勝利した。これが第2次ポエニ戦争の経緯である。なお、第2次ポエニ戦争はハンニバル戦争とよばれることもある。

(谷口昂輝, 町田佳奈子, 井小路瑞木)

2016 年度 名古屋大学 前期 世界史

問題 II 中世の中国の財政と土地制度

| | |
|-------|--|
| 出題範囲 | 中世の経済・社会・政治史 |
| 難易度 | ★★★★☆☆ |
| 所要時間 | 15分 |
| 傾向と対策 | 標準的な難易度の問題である。一問一答問題は確実に正解し、そのうえで問3、問6でどれだけよい解答を書けるかがカギであった。論述問題に関しては、日頃から問題の要求をしっかりと読み取り、必要なことを簡潔に書く練習をして対策しよう。また、用語の定義も確認しておき、特に制度や法令はどういう内容なのかを説明できるようにしよう。 |

《この解説の使い方》

黒太字 …この試験で合格点を取るために必要な頻出語句や内容を黒太字で記載した

赤字 …解答に関連する語句または内容を赤字で記載した

青字 …この試験で合格点を取るためにおさえておきたい年号を青字で記載した

解答

問1 ① 魏 ② 唐 ③ 宋

問2 租庸調

問3 唐の宰相である楊炎が考案した、農民の土地所有を認可し、現住所における土地・財産に応じて夏・秋の年2回、土地所有者による錢納を原則とする税制。780年の唐中期から16世紀後半の一条鞭法が普及する明後期まで存続した。(104字)

問4 【物品】塩 【王朝】前漢 【統治者】武帝

問5 茶、酒 (別解：ミョウバン、香薬)

問6 (A)・文治主義にもとづく文人官僚制が確立した。

- ・節度使を削減し、代わりに皇帝直属の禁軍を設置した。
- ・皇帝臨試の殿試の創設により、官吏登用の主要な方法としての科挙が完成した。

(B)・貴族が没落する一方で、佃戸制を基盤に新興地主の形勢戸が台頭した。

- ・市制廃止に伴って商工業が発達し貨幣経済が発展した。
- ・江南地方が穀倉地帯になると、経済の中心が東南地域に移動した。

問 1 難易度：★★★★☆

解答

① 魏 ② 唐 ③ 宋

解説

- ① 直後に「屯田政策に端を発した」とあるため、屯田制を開始した王朝を答えればよいとわかる。屯田制を開始したのは魏である。屯田制とは、国家が耕作者を定住させて、官有地を国の管理のもとで耕作させる制度であり、曹操が制定した。
- ② 最初の②の直後をみると「均田策となって」とあり、均田制を創始した王朝である北魏と解答したくなるが、これだと不正解である。あとの文章をしっかりと読むと「②の中期以降……両税となり」、「②王朝が内憂外患にもかかわらずなお一世紀半の命脈を持ちつづけた」とある。よって、この文章から正解は唐であるとわかる。
- ③ 答えは宋である。文章には答えに直結するような語句がないので、文章から読み取った内容と自分の知識を合わせて判断したい。文章から③ではそれまでの王朝と違って、商業が盛んになってきていることは読み取れるだろう。また「甚だ近世的なものを持っていた」という文言と、②の解答が唐であることから、③は中世の王朝だろうと予測できる。これら 2 つの内容を読み取り、唐以前と違って宋では商業に対する規制は緩く、また首都である開封が商業網の中枢に位置していた商業都市であったことなどを思い出せば、比較的容易に解答できるだろう。

問 2 難易度：★★★★☆

解答

租庸調

解説

租庸調は均田制にもとづく税制である。租は粟 2 石、庸は年 20 日の力役または絹布 3 尺の代納、調は絹布 2 丈と綿 3 両または麻布 2 丈 5 尺と麻 3 斤を課していた。均田制にもとづく税制であったがゆえに、均田制が破綻すると機能しなくなり、両税法が考案された。

なお、日本は租庸調を模倣した税制をつくったが、細かな違いがあるため、日本史を履修している受験生は、中国の租庸調と日本の租庸調を混同しないように気をつけよう。

問 3 難易度：★★★★☆

解答例

唐の宰相である楊炎が考案した、農民の土地所有を認可し、現住所における土地・財産に応じて夏・秋の年 2 回、土地所有者による銭納を原則とする税制。780 年の唐中期から 16 世紀後半の一条鞭法が普及する明後期まで存続した。(104 字)

設問の要求

字数 約 14.1cm×4 行

主題 両税法がどのような税制か

条件 両税法の徴税方法，存続時期について言及する

解説

両税法は唐の宰相である楊炎が，節度使の自立による税収減少や領土縮小，均田制の行き詰まりを原因とする財政難に対応するために 780 年に考案した税制である。両税法が制定されたことにより，均田制のもとで禁止されていた土地の自由売買は認可され，商業と大土地所有が公認されることになった。この税制は 16 世紀後半に明で一条鞭法が普及するまで存続した。

問 4 難易度：★★★★☆

解答

【物品】塩 【王朝】前漢 【統治者】武帝

解説

財政難に苦しむ唐は，安史の乱の最中に塩の専売を開始した。問題文にもあるように塩は毎日消費する商品であり，塩の専売の財政的な効果は非常に高かった。しかし，毎日使う物品に専売を敷くことは庶民にかかる負担が増大するという負の側面も持っていた。そして安価な塩を求める庶民が増えたため，塩の密売が横行した。政府は塩の密売を厳しく取り締まったが，その結果，黄巢の乱が起こった。

この塩の専売であるが，前漢の武帝が初めて行った政策であり，前漢以降の王朝では財政難が起こるたびに，塩を専売して乗り切ろうとした。前漢では匈奴制圧のために外征が繰り返され，これによって財政難が引き起こされた。そして財政再建のための政策が必要となったため，武帝は均輸法，平準法，塩・鉄・酒の専売などの政策を実行したのである。

問 5 難易度：★★★★☆

解答

茶，酒（別解：ミョウバン，香薬）

解説

宋においては塩，茶，酒などに専売制が敷かれていた。問 4 の解説で述べたように塩は生活必需品であったし，都市の人口増加や生活水準の向上によって酒の消費量も高かった。また，国内だけでなく諸外国にまで飲茶の風習が広まったことで茶の需要も非常に高かった。そのため，これらの物品に専売制を敷くことで，宋は大きな利益を得ることができた。ミョウバン，香薬の専売はメジャーな知識ではないので覚えていなくてもよいだろう。

問 6 難易度：★★★★☆

(A)

解答例

- ・文治主義にもとづく文人官僚制が確立した。
- ・節度使を削減し，代わりに皇帝直属の禁軍を設置した。
- ・皇帝臨試の殿試の創設により，官吏登用の主要な方法としての科挙が完成した。

設問の要求

字数 それぞれ約 11.6cm×1 行

主題 唐・宋の間に起きた政治制度の変化

解説

唐が藩鎮勢力の乱立によって権力が分散して弱体化した反省から、宋では藩鎮の増長を防ぐために**文治主義**を採用し、学識のある文官を重用した。これに伴って科挙が官吏登用の主要な方法となり、整備が必要とされた。そこで、科挙の最終試験として、**皇帝が臨席する試験である殿試が創設**され、皇帝と官僚の間のつながりが強調された。また、宋では中央集権体制も確立された。唐では門閥貴族が政治の実権を握っていたため、宋では**門下省が廃止されて六部が皇帝の直属**となり、皇帝独裁の体制が整った。また節度使を削減する代わりに**皇帝の親衛軍である禁軍を創設**して、中央集権的な軍事制度を整えた。

解答例では文治主義・禁軍の設置・科挙の完成を取り上げたが、門下省の廃止を挙げてても正解だろう。

(B)

解答例

- ・ 貴族が没落する一方で、佃戸制を基盤に新興地主の形勢戸が台頭した。
- ・ 市制廃止に伴って商工業が発達し貨幣経済が発展した。
- ・ 江南地方が穀倉地帯になると、経済の中心が東南地域に移動した。

設問の要求

字数 それぞれ約 11.6cm×1 行

主題 唐・宋の間に起きた社会経済での変化

解説

宋以前の王朝と宋の社会の大きな違いには、商工業が盛んであるかどうかが挙げられるだろう。宋以前の王朝では商業に対する規制は厳しく、特に唐では、**市制によって商業が行える場所・時間についての規制**がされていた。しかし宋ではこの規制が廃止されたため、都市の中で商業活動が活発に行われるようになり、さらに交通の要地や城壁の外には草市・鎮とよばれる商業町が現れた。実際に、首都である開封は一大商業都市として繁栄した。商品流通が盛んになると**貨幣経済も同時に発展**し、交子・会子という紙幣が誕生した。貨幣経済が発展した宋では、文治主義が採用されたこともあって**従来の貴族が没落**し、代わって**経済力を有した新興地主層である形勢戸が勢力を伸ばした**。彼らは土地を買い集めて地主となり、小作料をとって佃戸に土地を耕作させた。

また、南宋になると**江南の開発が進展**し、中国経済の中心が長安を中心とする西北地域から、江蘇・浙江・福建を中心とする東南地域へと移動した。農業技術が発展したことにより稲田の面積が増大し、江南地方が中国における大穀倉地帯となったのである。

(谷口昂輝, 高荷圭太郎, 井小路瑞木)

2016 年度 名古屋大学 前期 世界史

問題III 東南アジアの文明圏

| | |
|-------|---|
| 出題範囲 | 古代～近代の政治・経済・文化史 |
| 難易度 | ★★☆☆☆ |
| 所要時間 | 15分 |
| 傾向と対策 | どの問題の難易度もやや易～標準である。いずれも基礎的な知識で解ける問題ばかりであり、ここでしっかりと正解できるかどうかの差は大きい。難問への対処ばかりに目を向けるのではなく、標準的な難易度の問題を間違えることがないように基礎的な知識も大切にすることが、合格への近道であろう。 |

《この解説の使い方》

黒太字 …この試験で合格点を取るために必要な頻出語句や内容を黒太字で記載した

赤字 …解答に関連する語句または内容を赤字で記載した

青字 …この試験で合格点を取るためにおさえておきたい年号を青字で記載した

解答

問1 (1)ドンソン文化 (2)銅鼓

(3)A)李朝

B)907年に唐が滅亡した後の中国は、華北では有力節度使が建てた5つの王朝が交替し、地方では10余りの国が興亡する、五代十国という分裂の時代を迎えていた。(73字)

(4)陳朝 (5)チャンパー (6)黎朝

問2 (1)マゼラン (2)ホセ＝リサール (3)アメリカ合衆国

問3 (1)バガン朝 (2)スコタイ朝

問4 イスラームに改宗したことでムスリム商人の往来が活発になり、インド洋交易圏と南シナ海交易圏をつなぐ、海上交易の中心地としての繁栄が可能となった。(71字)

問1 難易度：★★★★☆

(1)

解答

ドンソン文化

解説

ドンソン文化は中国文明の影響を受けて、B.C.4世紀にベトナム北部で発展した文化である。独特な青銅器や鉄製農具を使用した。

(2)

解答

銅鼓

解説

ドンソン文化に特徴的な青銅器は銅鼓である。銅鼓は権力の象徴として祭祀に用いられ、東南アジアの広い地域で出土している。

(3)A)

解答

李朝

解説

問題文にもあるように、B.C.2世紀末の武帝の遠征によって南越が滅んで以来、ベトナム北部は中国の支配下にあった。この中国によるベトナム支配を終わらせたのが、昇竜（ハノイ）を都に李公蘊^{りこううん}が開いた李朝である。李朝は国号を大越国とした。李朝は中国の諸制度を導入し、儒教・仏教・道教を保護した。

(3)B)

解答例

907年に唐が滅亡した後の中国は、華北では有力節度使が建てた5つの王朝が交替し、地方では10余りの国が興亡する、五代十国という分裂の時代を迎えていた。(73字)

設問の要求

字数 横 13.0cm×縦 3.9cm

主題 10世紀初め～半ばの中国の状況

解説

李朝が成立した背景には、当時の中国が混乱状態にあったことが挙げられる。907年に唐は朱全忠によって滅ぼされ、それ以来華北では後梁・後唐・後晋・後漢・後周の5つの王朝が興亡し、江南・華南において10余りの国が乱立する五代十国の分裂時代に入った。この時代の中国は、経済的には発展したが政治的には非常に不安定であり、国外に目を向ける余裕がなかった。そのため李朝は独立できたのである。

(4)

解答

陳朝

解説

李朝に続いて成立した王朝は**陳朝**である。陳朝は 13 世紀後半にモンゴル軍の遠征を 3 度にわたり撃退した。陳朝ではベトナム独自の文字として**字喃**（チュノム）が発明されたが、習得するのが難しく定着することはなかった。

(5)

解答

チャンパー

解説

李朝や陳朝などの北部ベトナムの王朝と争った中部ベトナムの国は**チャンパー**である。港市国家として繁栄し、また 3 世紀頃からインド化が進行し始めてヒンドゥー教を受け入れたことで有名である。この問題の解答には使用できないが、中国側からは**林邑**、**環王**、**占城**などの名前でよばれた。

(6)

解答

黎朝

解説

15 世紀初頭、ベトナムへの永楽帝の遠征によって、大越国は中国の支配下に置かれた。しかしベトナムの伝統を無視した統治はベトナム人の強い反明感情を引き起こし、**黎利**を指導者として反乱が起きた。そして反乱軍が明軍に勝利すると、黎利を王として**黎朝**が成立した。黎朝は明の朝貢国となり、明の制度や文化を取り入れるなど、黎朝と明は良好な関係にあった。

問 2 難易度：★★★★☆

(1)

解答

マゼラン

解説

16 世紀にスペイン王の援助を受けて、南アメリカ大陸を経由して太平洋を横断しフィリピンに到達したポルトガル人航海者は**マゼラン**である。世界初の世界周航を目指したが、フィリピンで**ラブラブ**に殺された。そのうち、彼の船団の生き残りが世界周航を達成した。

(2)

解答

ホセ＝リサル

解説

19 世紀後半、スペインの支配下にあったフィリピンでは高等教育を受けた知識人層の間で、植民地支配に対する批判が高まっていた。この知識人の代表例が**ホセ＝リサル**である。ヨーロッパに留学して高等教育を受けたのち帰国し、小説や評論で植民地支配の腐敗を非難して独立を主張した。彼は秘密結社のカティプーナにかかわったとされて銃殺刑に処された。

(3)

解答

アメリカ合衆国

解説

1898 年、キューバをめぐる起こった米西戦争において**アメリカ**はスペインに勝利して、パリ条約で**フィリピン・グアム・プエルトリコ**を獲得し、**プラット条項**でキューバを保護国化した。フィリピンはスペインからの独立をもくろみアメリカに協力したが、アメリカは独立を認めず、1899 年にフィリピン＝アメリカ戦争が勃発した。この戦争にフィリピンは敗北してアメリカの本格的な植民地統治を受けることになるが、ゲリラ戦による抵抗が続いた。

問3 難易度：★★★★☆

(1)

解答

パガン朝

解説

11 世紀に現在のミャンマーに成立し、モン人やスリランカから上座部仏教を取り入れた王朝は**パガン朝**である。ビルマ人が建てた初めてのビルマ統一王朝であるが、13 世紀に元の攻撃を受けて滅亡した。

(2)

解答

スコータイ朝

解説

クメール人から自立したタイ人による初めての王朝は**スコータイ朝**。上座部仏教を受け入れて仏教文化が栄えたほか製陶技術が発達したが、15 世紀に南部の**アユタヤ朝**に併合された。

問4 難易度：★★★★☆

解答例

イスラームに改宗したことでムスリム商人の往来が活発になり、インド洋交易圏と南シナ海交易圏をつなぐ、海上交易の中心地としての繁栄が可能となった。(71 字)

設問の要求

字数 横 14.1cm × 縦 3.9cm

主題 マラッカの王のイスラームへの改宗が、マラッカ王国にどのように有利に働いたか

解説

マラッカ王国は建国した当初はタイに圧迫されていたものの、鄭和の遠征を機に明の保護を受けたこともあって、ムスリム商人が活動するインド洋交易圏と、南シナ海交易圏を結ぶ海上交易の結節点となり大いに繁栄した。この前提にあるのが、マラッカの王のイスラーム改宗である。マラッカは15世紀にはすでに国際的な交易の拠点として栄えていたが、王がイスラームに改宗したことでムスリム商人の往来が活発になったのである。

(谷口昂輝, 高荷圭太郎, 井小路瑞木)

2016 年度 名古屋大学 前期 世界史

問題IV 中世末期のドイツ・イタリア情勢

| | |
|-------|--|
| 出題範囲 | 中世の政治史 |
| 難易度 | ★★★★☆ |
| 所要時間 | 30分 |
| 傾向と対策 | ヨーロッパ中世末期のドイツとイタリア北部についての問題。テーマ自体はよくあるものであり、日頃から論述の練習を怠っていなければ容易に解答の骨子をつくれたらう。指定語句も使い方に困るようなものはないため、しっかりとよい解答をつくりたいところである。 |

《この解説の使い方》

黒太字 …この試験で合格点を取るために必要な頻出語句や内容を黒太字で記載した

赤字 …解答に関連する語句または内容を赤字で記載した

青字 …この試験で合格点を取るためにおさえておきたい年号を青字で記載した

《字数について》

マス目付き解答欄について、英字・算用数字は「1マスにつき最大2文字」書くことを前提として計算した

例 800 年の場合

| | | |
|----|----|---|
| 80 | 0 | 年 |
| 8 | 00 | 年 |

1200 年の場合

| | | |
|----|----|---|
| 12 | 00 | 年 |
|----|----|---|

ASEAN の場合

| | | |
|----|----|---|
| AS | EA | N |
|----|----|---|

解答例

ドイツでは、皇帝が事実上不在である大空位時代の再発防止のため、14世紀半ばにカール4世が金印勅書を発令し、臣民の代表たる七選帝侯により神聖ローマ皇帝が選出されるようになった。これにより皇帝権の臣民への依拠が明文化され、皇帝権の弱体は顕著になった。また、イタリア政策以来、諸侯は領邦における一元的支配を築き、領邦は貨幣鑄造権・裁判権を有する独立国家としての性格を備え、ドイツは独立した小国家の集合体となっていた。イタリア北部では、商業の発展を背景に繁栄した都市が自治権をもち、周辺村落を支配し都市国家と化した。このような都市国家は、ジェノヴァとヴェネツィアのように交易の覇権を争ったほか、イタリア政策に際して皇帝支持のギベリンと教皇支持のゲルフに分かれて争ったため、イタリア北部は政治的に分裂・混乱した。(350字)

設問の要求

字数 350 字以内

主題 中世末期のドイツとイタリア北部の状況

条件 ドイツとイタリア北部で中央集権化が進まなかった理由に留意する

指定語句を 1 度は用いる

解説

(1) 設問の読み取り

解答を作成するにあたり、まず問題で何が問われているかをチェックする。この問題で問われているのは、中世末期におけるドイツとイタリア北部の状況についてである。中世末期という少しあいまいな時期区分なので、どの時期について書けばよいのか戸惑ったかもしれない。しかし、「イギリスやフランスで（中略）国家の統合が推進された」とあるため、14～15 世紀頃の状況を述べればよいとわかる。

また、なぜこの 2 国では中央集権化が進まなかったのかについて留意するように指示されている。ただ単に当時の状況を述べるのではなくて、当時のドイツとイタリア北部は統一が困難な状況にあったことがしっかり伝わるような答案の書き方を心がけよう。

(2) 中世末期のドイツとイタリア北部の状況

① ドイツの状況

ドイツでは、13 世紀半ばのフリードリヒ 2 世の没後、ドイツ以外の王を含めて対立国王が並び立ち、皇帝が実質的には不在である**大空位時代**を迎えていた。1273 年にハプスブルク家から皇帝が選出されたことで大空位時代は終焉したが、皇帝選出を巡る混乱は依然として続いていた。**カール 4 世**はこの混乱を終わらせるために**金印勅書**を発令した。これは、マインツ・ケルン・トリールの 3 名の聖界諸侯とライン宮中伯・ザクセン大公・ボヘミア王・ブランデンブルク辺境伯の 4 名からなる**七選帝侯**を臣民代表として、彼らによる選出を皇帝位の要件として明記した法令である。これにより、神聖ローマ皇帝の権力は臣民に依拠することが明文化され、**皇帝権はもともと弱体であったが、この弱体が顕著になったのである。**

また、歴代の神聖ローマ皇帝は**イタリア政策**を熱心に行っており、国内の統治はおろそかになっていた。その結果、ドイツ本土では**諸侯が力を伸ばして領邦を形成し**、14 世紀にもなると、領邦における集権化が進んだため、諸侯は領邦の一円的な支配を実現するようになった。この**領邦は貨幣鑄造権や裁判権などの権利をもち、独立した国家としての性格をもっていた。**15 世紀にはドイツにある領邦の数は 300 程度になり、ドイツを政治的に統一することは困難になったのである。

② イタリア北部の状況

イタリア北部では、商業が発展したことを背景に 13 世紀から都市が繁栄し始めた。この都市は 1 つの政治体として、独自の裁判機構・軍隊・外交機能を有していた。またこれらの都市は自治権を持つと**コムーネ**と呼ばれるようになり、コムーネは周辺村落を支配下に組み入れて都市国家へと成長を遂げた。そして、イタリア北部では、例えば**ヴェネツィア**や**ジェノヴァ**が海上交易の覇権をめぐる激しく争ったように、都市国家間での対立・

抗争が起こった。また、神聖ローマ皇帝のイタリア政策に際しても、皇帝を支持するギベリンと教皇を支持するゲルフに分かれて激しく争っていた。このように、イタリア北部では都市国家が分立状態にあり、これらが互いに争っていたため、政治的統一は困難だったのである。

(谷口昂輝, 高荷圭太郎, 井小路瑞木)